

3.11 9.11 それぞれの追憶

被災学生ら、テロ遺族と交流

NY「共に笑顔で」誓い合う

【ニューヨーク共同】東日本大震災で被災した東北3県の学生らが13日、2001年の米中核同時テロで崩壊した世界貿易センタービル(WTC)の跡地(グラウンド・ゼロ)を訪れ、テロの遺族でつくる「9・11家族会」のリー・イエルピ会長(68)らと交流、消防士の息子が殉職した同会長から「すべてを失っても笑顔で生きていこう」と励ましを受けた。

一行は、津波で両親、祖母、姉を亡くし今年6月からミシガン州の高校に通う若手

県立大穂高卒の小川彩加さんの大学1年生8人の計9人。(18)と、岩手、宮城、福島出身 教育支援グローバル基金



世界貿易センタービル跡地で、石に彫られた日本人犠牲者の名前をたどる小川さん(左)とイエルピ会長

(東京)の支援事業「レモンドトゥモロー」と日米両政府の「TOMODACHIイニシアチブ」の協力で、今月7日からハリケーンの被害を受けた南部ニューオーリンズなどを訪れている。

一行はテロの犠牲者全員の名前が周囲の石に彫られている跡地の人工池を見学後、犠牲者の遺族や跡地記念館のボランティアら十数人に被災地のビデオを見せた。小川さんは英語で「亡くなった両親のためにできるのは、自分が幸せになることだと思う」と心境を話した。

二本松市出身で宇都宮国際学部1年の菅野翼さん(18)は「息子さんを亡くしたイエルピさんが、笑顔をつくって話すのが印象的だった」と感想を語った。